

# 認知症地域支援推進員 活動事例集 ついに発行！

# なごや認知症

# NEWS

平成30年8月、名古屋市認知症相談支援センターでは「認知症地域支援推進員活動事例集（以下、事例集）」を発行しました。事例集には、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進める認知症地域支援推進員（以下、推進員）の様々な取り組みを紹介しています。

### なごやの認知症の今が分かる

●発行●  
 名古屋市認知症相談支援センター  
 名古屋 [n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp](mailto:n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp)  
 ☎ 052-919-6622 ☎ 052-913-8553  
 ※本センターは、名古屋市社会福祉協議会が名古屋市から委託を受けて実施しています。

## 認知症の人やその家族の暮らしを支える 推進員の知恵と工夫がギョツ！

推進員は、認知症の医療や介護の専門的知識や経験を持つ有資格者で、29か所のいきいき支援センターに1名ずつ配置されています。そして、認知症になっても安心なまちづくりのため、★認知症の普及・啓発や★認知症の人や家族の居場所づくり、★早期発見・早期対応の仕組みづくりや★関係機関のネットワークづくり、★認知症の人を介護する家族支援など、多岐にわたる取り組みを地域の人たちと協力しながら進めています。

平成27年度から始まりました推進員の取り組みですが、区ごとの地域課題や実情に合わせて、ひとつひとつの実践を積み重ねることで、少しずつ成果が現れ始めてきました。また、こうした成果を一人でも多くの人に伝えることで、協力者を増やし、実効あるまちづくりにつなげていきたいという思いから事例集を作成しました。

事例集の内容は、事業概要や成果だけではなく、取り組みのきっかけや工夫をした点、今後の方向性などを掲載しており、推進員の熱い思いがギョツと詰まったものになっています。なお、事例集は市内いきいき支援センター及び名古屋認知症相談支援センターで配布しています。

### ◆事例集をめくってみると…

千種区では、「認知症予防体操インストラクター養成講座（以下、講座）」を開催しています。認知症サポーターが地域で活躍する機会をつくりたいとの推進員の思いから始まりました。講座の呼びかけに、30名を超える認知症サポーターが参加し、脳トレをしながら体操を行う「デュアルタスク」と呼ばれる認知症予防体操を学びました。今では、認知症に関する講演会などで体操を紹介し、認知症予防の普及啓発を行っています。また、インストラクター同士の交流会を開催し、活動報告や意見交換を行うことでモチベーションの維持、向上に努めています。事例集には、千種区の取り組みの他、15



## 若年性認知症相談職員向け研修を開催 認知症になっても働き続けられるまちへ

平成30年10月17日、若年性認知症相談職員向け研修を開催し、区役所や保健センター、いきいき支援センターの職員をはじめ、約50名が参加しました。若年性認知症を発症した人の7割以上が仕事を失っている現状から、認知症になってもできるだけ長く仕事を継続するために、どのような支援が考えられるのか。講師に愛知産業保健総合支援センターの服部文氏、愛知県若年性認知症総合支援センターの山口喜樹氏をむかえて学びました。

服部氏からは「治療と仕事の両立支援」について、山口氏からは具体的な支援事例が紹介され、参加者は認知症の早期発見・早期対応の重要性（早期であればあるほど、多様な支援が展開できる）と、病気や障がいを持つても、社会とつながりながら生活していくことの重要性を学びました。



治療と仕事の両立支援について講演する愛知産業保健総合支援センターの服部文氏

## 認知症サポーター養成講座テキストを改訂！ 「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目標として

平成19年に認知症サポーター養成講座（以下、養成講座）が始まって以来初めて、名古屋市版養成講座テキストを大幅に改訂しました。

今回の改訂は、本人や家族の体験に基づき、その言動の背景にある本人の「認知症の人」の理解を深めることを目的としています。

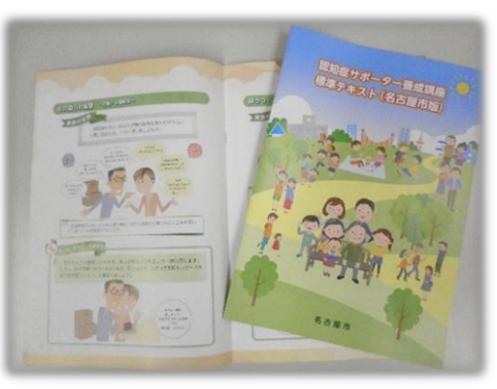
また、認知症になっても前向きに暮らしている本人の言葉を伝えることで、認知症に対する社会の見方（画一的で否定的なイメージ）を変える機会になることを期待しています。

現在、名古屋市内の認知症者数は、約5万6千人と推計されています。また、年を重ねれば誰でも認知症になる可能性があり、誰にとっても身近なものと言えます。

しかし、認知症の理解は十分に進んでいないとは言えません。「認知症になったら何もできなくなる」などといったマイナスのイメージが先行して

おり、認知症の人や家族が生きづらい現状があります。

そこで、養成講座を通して、認知症を自分のこととして捉え、当事者をはじめ、様々な立場や年代の人たちと協力し、「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目標として「なごや」をみんなで目指していきたいと思えます。



## 本人ミーティングを開催します！

本人ミーティングでは、認知症の本人が集い、自らの体験や、これからやりたいことなどを語り合うことで、自分たちのこれからの暮らしや暮らしやすい地域のあり方を明らかにしていきます。

「安心して暮らせることは？」  
 「生活で工夫していることは？」  
 など、今回の本人ミーティングで話し合われた内容は、名古屋市の認知症施策に反映していきます。

日時・平成30年11月12日（月）  
 午後2時～3時

場所・市立西部医療センター  
 （北区平手町1-1-1）

対象・認知症と診断を受けた65歳以上の方

問合せ・名古屋市認知症相談支援センターまで

※都合により日程等が変更になる場合があります。

## はい、こちらは認知症 コールセンターです！

平成30年度上半期 延相談 571件

平成30年度の上半期の相談実人数は301件、延件数は571件でした。傾向は昨年度と同様、介護保険未申請の方からの相談が多いことです。また、相談者の内訳では、家族からの相談が最も多かったです。

### ●よくある相談例●

家族が、同じことを何度も言ったり、物をよなくすようになった。認知症ではないかと心配。

【対応】 まずはかかりつけ医に相談し、紹介状をもらって認知症の検査のできる病院にかかっていたかどうかよくお伝えしています。

お電話を受けたら丁寧にお話を聞き、不安な気持ちを受け止めることを大切にしています。

ぜひ、お気軽にお電話ください！

1日あたりの平均相談件数 (30年8月・9月) **4. 2件**